2027年3月期 第2四半期
決算説明会資料

2026年 11月 10日

株式会社クレハ

目次

株式会社クレハ

Ⅰ. 2027年3月期 本資料のポイント （3）～（7）

Ⅱ. 中期経営計画 - Technology to Value 2028（技術を価値へ）- の進捗

・ROE改善の道筋 （9）
・PVDF事業 （10）
・PGA事業 （11）
・農薬事業 （12）
・家庭用品事業 （13）
・生産革新プロジェクト （14）
・配当 （15）

Ⅲ. 資料

Ⅲ-（1）2027年3月期 上期業績
・セグメント別連結業績 （17）～（18）
・財政状態計算書 （19）
・キャッシュフロー実績 （20）

Ⅲ-（2）. 2027年3月期 通期業績予想
・2027年3月期 業績予想概要 （22）
・セグメント別連結業績予想 （23）～（24）
・キャッシュフロー予想 （25）

Ⅲ-（3）.主要指標 （27）～（29）

KUREHA

Ⅰ. 2027年3月期 本資料のポイント

本資料のポイント(1)

株式会社クレハ

2027年3月期 上期実績

(単位:億円)

	27/3 上期	26/3 上期	上期 YoY	前回予想	差異
機能製品	343	311	32	330	13
化学製品	161	137	24	155	6
樹脂製品	196	182	13	205	-9
建設関連	80	59	21	85	-5
その他関連	91	84	6	80	11
売上収益	**871**	774	97	855	16
機能製品	46	24	22	24	22
化学製品	4	4	0	4	-0
樹脂製品	38	36	3	35	3
建設関連	3	4	-1	3	-0
その他関連	14	10	4	9	5
セグメント調整	3	-1	4		3
コア営業利益	**108**	76	33	75	33
その他収益・費用	-1	6	-7	-	-1
営業利益	**107**	81	26	75	32
金融収益費用・税等	-31	-18	-13	-25	-6
当期利益	**76**	63	13	50	26
EBITDA	165	142	22	131	34

前年同期比の主な差異要因

- 2027年3月期上期の前年同期比は、増収増益となった。
- 売上収益は、全てのセグメントで前年を上回った。特に、機能製品のPGAが引き続き販売が好調なことに加え、PVDFがEV用途および工業用途での販売増加により増収となった。また、化学製品の農薬は出荷時期の変更により前年を上回った。樹脂製品の家庭用品も増収となった。
- コア営業利益は、機能製品で大きく増益。
  機能製品は、上期の樹脂生産数量増による原価改善等によりPGA利益が大幅に改善したほか、持分法利益を含むPPS損益の好転により増益。

前回(1Q)予想比の主な差異要因

- 売上収益は前回予想を上回った。PVDFはESS向け販売が低下したもののEV向け販売が想定を上回って推移。環境事業は受注が好調なため、売上が増加。
- コア営業利益は売上収益の増加と製品構成の改善、および販売費及び一般管理費の下期へのずれ込みなどにより、前回予想を上回った。

為替レート	2027/3 上期実績	2026/3 上期実績
(円/ドル)	159.5	146.0
(円/ユーロ)	184.4	168.1
(円/元)	23.5	20.3

原油価格前提	2027/3 上期実績	2026/3 上期実績
原油(Brent) (ドル/bbl)	96	67

KUREHA

コア営業利益: 営業利益から非経常的な要因により発生した損益(非経常項目)を除いて算出
当期利益: 親会社の所有者に帰属する利益

本資料のポイント(2)

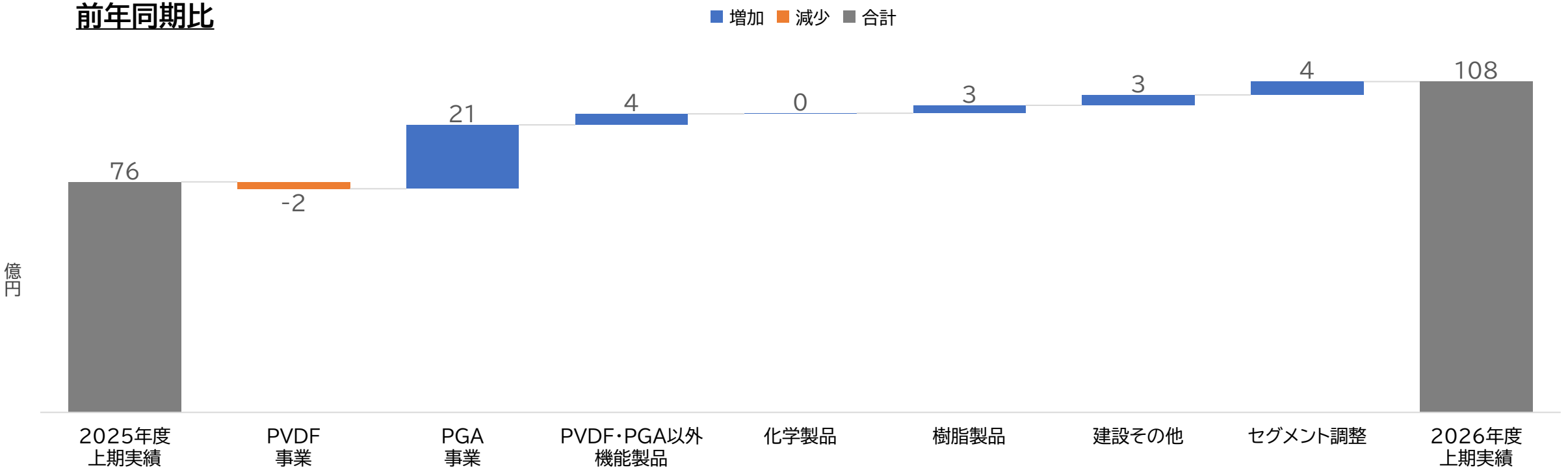
株式会社クレハ

2027年3月期 上期実績

- 樹脂生産数量増による原価改善等によりPGA利益が大幅に改善したほか、持分法利益を含むPPS損益の好転によりコア営業利益が増加
- PVDFは売上の増加に加え販売構成の変化により収益性が改善したものの、前年度にあった在庫評価の戻し益がなくなったことにより減益

<コア営業利益 増減要因分析:2027年3月期 上期業績>

前年同期比



KUREHA

コア営業利益:営業利益から非経常的な要因により発生した損益(非経常項目)を除いて算出

本資料のポイント(3)

株式会社クレハ

2027年3月期 通期業績予想

(単位:億円)

	27/3 今回予想	26/3 実績	差異	27/3 前回予想	差異
機能製品	660	613	47	640	20
化学製品	315	295	20	315	-
樹脂製品	405	367	38	405	-
建設関連	195	160	35	195	-
その他関連	185	182	3	175	10
売上収益	1,760	1,617	143	1,730	30
機能製品	53	21	32	21	32
化学製品	6	14	-8	11	-5
樹脂製品	63	69	-6	63	-
建設関連	8	15	-7	8	-
その他関連	26	26	0	17	9
セグメント調整	4	-1	5		4
コア営業利益	160	145	15	120	40
その他収益・費用	-25	-331	306	-10	-15
営業利益	135	-186	321	110	25
金融収益費用・税等	-45	79	-124	-35	-10
当期利益	90	-107	197	75	15
EBITDA	255	302	-48	230	25

前期比の主な差異要因

- 機能製品のPGAやPPS、化学製品の工業薬品、樹脂製品の家庭用品や建設関連での売上増により増収。
- コア営業利益は、機能製品で大きく増益も、化学製品・樹脂製品・建設関連は減益。
- PGAは売上収益増および収益性の改善で大幅に増益となり黒字化を見込む。PPSは、自動車用途に加え、AIサーバー向け光コネクタ部品用途が好調なことによる売上および利益増に加え、持分法利益の改善により増益。一方、PVDFはいわき事業所の能力増強の一部設備の償却開始、前年にあった在庫評価の戻し益がなくなることにより減益。化学製品は、農薬の研究開発費用の増加により減益。建設関連は工事案件の構成により減益。
- 前期に計上したPVDF事業および医薬品事業の減損損失(その他費用)がなくなることにより、営業利益が大幅に改善。

業績予想修正: 前回(1Q)予想比の主な差異要因

- 2026年8月7日公表の通期業績予想を上方修正する。
- 機能製品は、PVDFが販売構成の変化による収益性の改善に加え、下期に実施する生産調整に伴い製造固定費の一部が期末在庫に計上され、翌期の販売時に費用化されること等により、2026年度は利益が改善。また、PPSの売上増加および持分法利益の改善により、PPS全体の利益が増加。
- 化学製品は、農薬の研究開発費用の増加等により損益悪化。その他関連は、環境事業が上期好調な受注であったことから損益が改善。

為替レート	2026/3 通期実績	2027/3 前回予想	2027/3 上期実績	2027/3 下期予想	**為替感応度**(営業利益・2027/3期 半期)
(円/ドル)	150.7	155.0	159.5	158.0	1ドル 1円の円安で、100百万円プラス
(円/ユーロ)	174.6	180.0	184.4	183.0	1ユーロ1円の円安で、 10百万円プラス
(円/元)	21.2	22.0	23.5	23.0	1元 1円の円安で、 110百万円プラス
原油価格前提	2026/3 通期実績	2027/3 前回予想	2027/3 上期実績	2027/3 下期予想	**原油価格感応度**(営業利益・2027/3期 半期)
原油(Brent) (ドル/bbl)	70	100	96	108	原油 1$/bbl の値上がりで、18百万円/下期マイナス

コア営業利益: 営業利益から非経常的な要因により発生した損益(非経常項目)を除いて算出
当期利益: 親会社の所有者に帰属する利益

本資料のポイント(4)

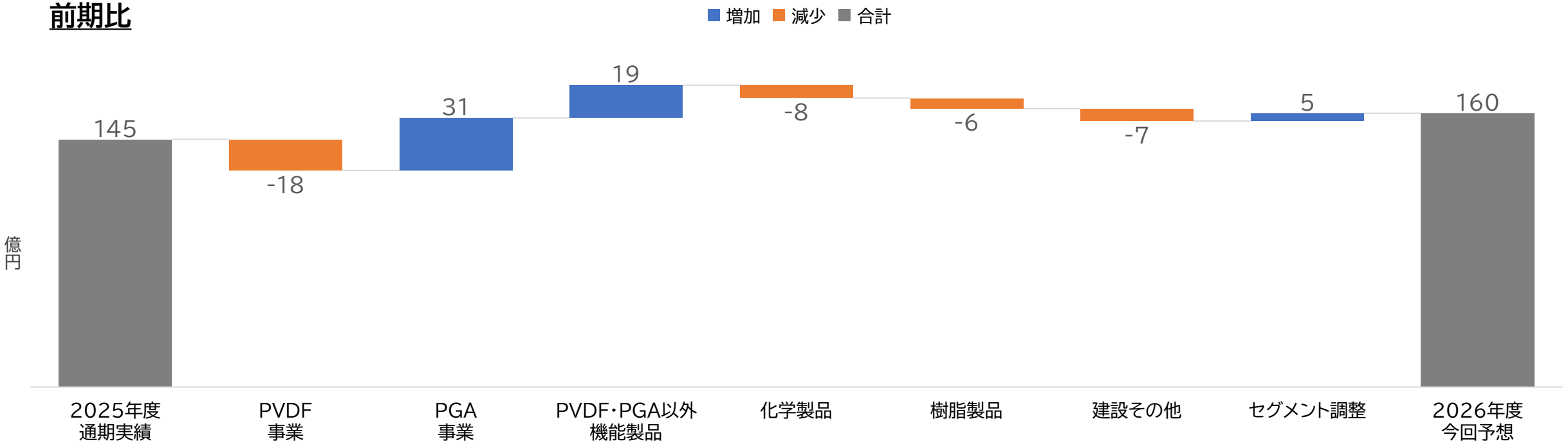
株式会社クレハ

2027年3月期 通期業績予想 ： 前期比

- PGAは売上収益増および収益性の改善で大幅に増益。PPS(PVDF・PGA以外の機能製品)は、売上および利益増に加え、持分法利益の改善により増益。
- PVDFはいわき事業所の能力増強の一部設備の償却開始、前年にあった在庫評価の戻し益がなくなることにより減益。
- 化学製品は農薬の研究開発費用の増加により、樹脂製品は家庭用品の原燃料価格高騰および販促費増加により減益。建設関連は工事案件の構成により減益。

＜コア営業利益 増減要因分析：2027年3月期 業績予想＞

前期比



KUREHA

コア営業利益：営業利益から非経常的な要因により発生した損益(非経常項目)を除いて算出

本資料のポイント(5)

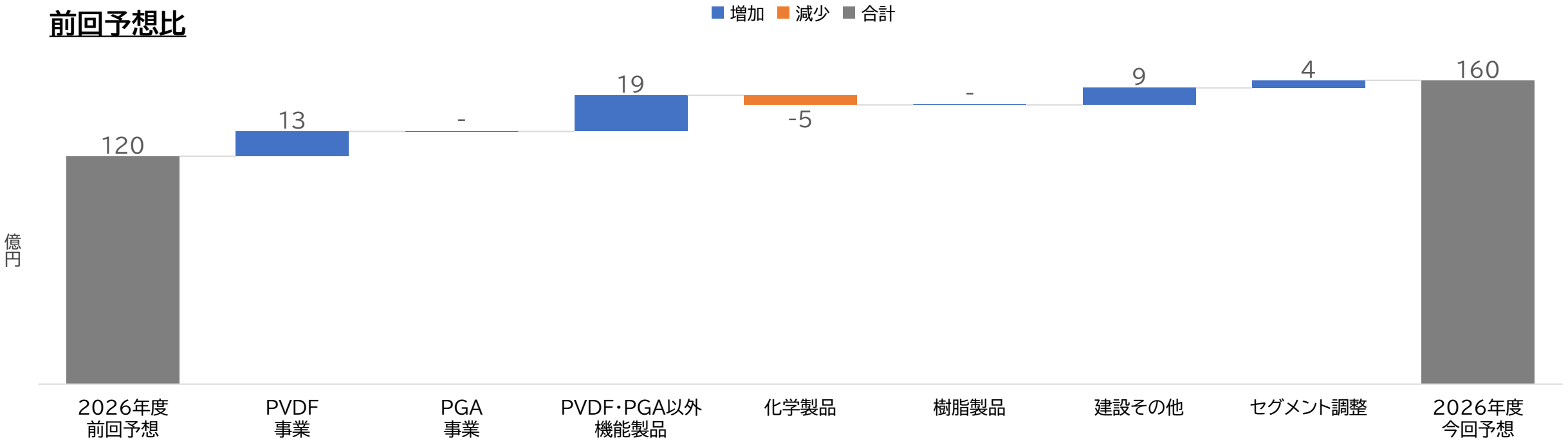
株式会社クレハ

2027年3月期 通期業績予想 ： 前回予想比

- PVDFは、販売構成の変化による収益性の改善に加え、下期に実施する生産調整に伴い製造固定費の一部が期末在庫に計上され、翌期の販売時に費用化されること等により、2026年度は利益が改善。
- PPS（PVDF・PGA以外の機能製品）は売上および利益増に加え、持分法利益の改善により増益。
- 化学製品は、農薬の研究開発費用の増加等により損益悪化。その他関連は、環境事業が上期好調な受注であったことから損益が改善。

＜コア営業利益 増減要因分析：2027年3月期 今回業績予想＞

前回予想比



コア営業利益：営業利益から非経常的な要因により発生した損益（非経常項目）を除いて算出

Ⅱ.中期経営計画 - Technology to Value 2028（技術を価値へ）- の進捗

ROE改善の道筋

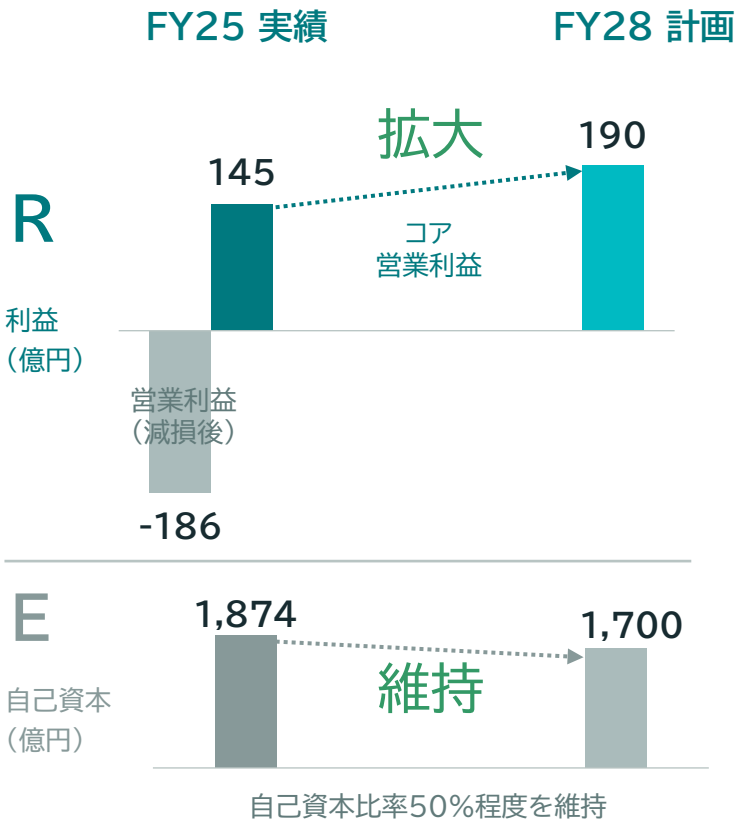
株式会社クレハ

- ROE8%を達成できる事業体制の早期構築を目指す。自己資本は前中計で最適化を実施済み。本中計期間では、利益拡大による資本収益性の向上を目指す。
- 利益成長の根幹として、PGA事業の黒字化、PVDF事業を中心とする機能製品の売上成長、生産革新によるコスト低減が主な施策となる。
- また、既存設備の有効活用と生産革新により投下資本効率を高め、ROIC改善と利益成長の両立を目指す。

＜中計 2028年度目標＞

指標	FY25 実績	FY28 計画
コア営業利益	145億円	**190億円**
EBITDA	302億円	**330億円**
ROIC	△4.2%	**4.8%**
ROE	△5.7%	**8.0%**
自己資本比率	49%	**50%程度**

＜ROEの要素推移＞



＜ROE改善に向けた施策＞

利益成長

主力事業の収益改善

PVDF：LFP系電池・工業用途の拡販

PGA：販売拡大・プラグショート化による収益性改善

生産革新・コスト削減

生産体制の効率化

製品構成・採算性の改善

KUREHA

ROE＝親会社所有者帰属当期利益÷期中平均自己資本。上段のコア営業利益÷Eとは異なる。
コア営業利益：営業利益から非経常的な要因により発生した損益（非経常項目）を除いて算出

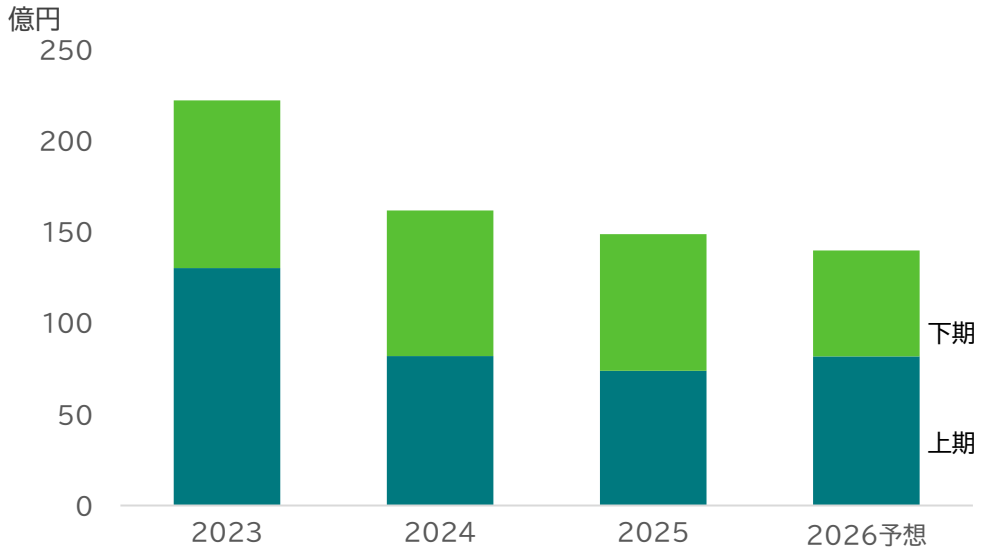
PVDF事業

株式会社クレハ

＜市場概況＞

- 車載用途LiB需要は、中長期では持続的に拡大する見通しに変更なし。短期的には、停滞した米国市場に変化が見られない一方、欧州ではEV補助金制度の再開や中東情勢の影響によるエネルギーコストの上昇などによりEV需要が回復基調となった。
- ESS用途のLiB需要は、引き続きデータセンター向けの増加により市場拡大が続く。

＜PVDF売上収益の推移＞



＜損益の状況＞

前期同期(上期)比　前期(通期)比

- 上期はESS用途が前年並みの販売に留まったものの、車載用途は欧州EV市場の回復により、工業用途は半導体周辺機器向けを中心に、販売が増加した。その結果増収となったが、前年度にあった在庫評価の戻し益がなくなったことにより減益。
- ESS用途は、既存グレードで販売を開始していた特定の顧客における採用構成の変化により大きくシェアを落とし、当面販売量は低調の見込み。付加価値の高いLFP系新グレードの開発により、来期以降の新規案件獲得を目指す。
- 通期は、前年並みの売上収益を見込むものの、いわき事業所の能力増強の一部設備の償却の開始、前年度にあった在庫評価の戻し益がなくなることにより大きく減益となる見込み。

対前回(1Q時)予想比(通期)

- 販売構成の変化による収益性の改善に加え、下期に実施する生産調整に伴い製造固定費の一部が期末在庫に計上され、翌期の販売時に費用化されること等により、2026年度は利益が改善。

＜施策進捗＞

- いわき事業所の能力増強は、2026年度下期より、一部設備を固定資産に編入予定。(当初計画から変更なし)
- LFP系(ESSおよびEV用途)の付加価値の高い新グレード開発品は複数の顧客で評価中。既存グレードの拡販において、新規中国LiBメーカーから採用内定。次年度以降の販売数量増となる見込。
- 工業用途は半導体周辺機器向けの販売が好調。半導体・データセンター向け部品を中心に販売の増加および新規獲得を目指す。
- LFP系新グレード開発や既存グレード拡販に継続して取り組むものの、その結果を待つだけではなく、並行して最適な生産体制の検討にも着手している。

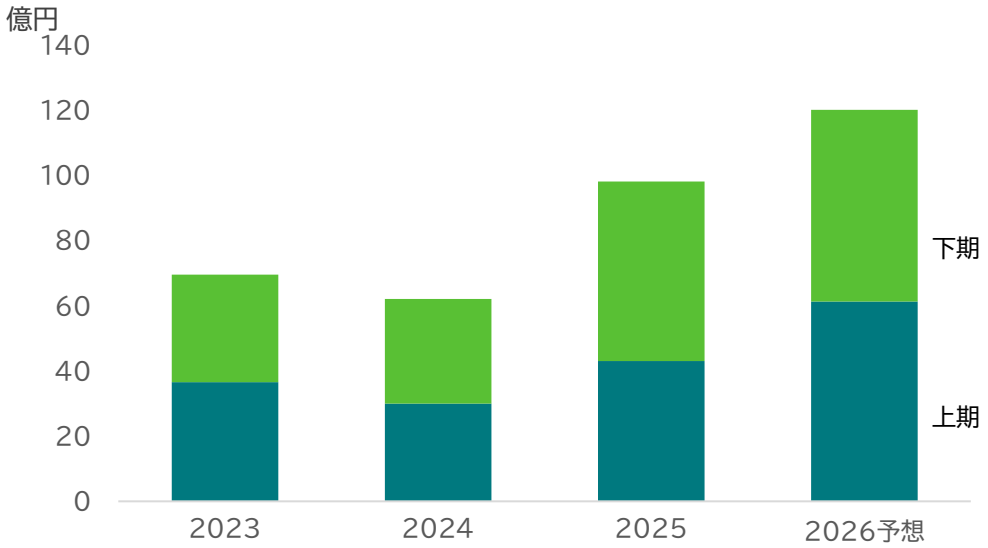
PGA事業

株式会社クレハ

＜市場概況＞

- データセンター向け発電用ガスの旺盛な需要やLNG輸出能力の増加を背景に天然ガス市況は好調を維持しており、ガス鉱区（高温）の生産活動は活発な状態が続いている。
- 中東情勢緊迫化後のオイル価格上昇により、仕上げ井戸数は増加する可能性があるが、現時点では大きな変化はなく、底堅く推移している。

＜PGA売上収益の推移＞



＜損益の状況＞

前期同期（上期）比　前期（通期）比

- 引き続き好調な市況および拡販により、上期は前年の売上収益を大きく上回った。利益は上期の樹脂生産数量増による原価改善等により増益。
- 下期以降も好調な販売を見込んでいることから、樹脂在庫繰りを踏まえ中高温向け生産・販売を優先する方針を継続。9月より今年度2回目の樹脂生産を開始し、現時点で順調に生産を継続している。
- 現時点で年間での黒字化計画に変更なし。

対前回（1Q時）予想比（通期）

- 販売数量に変更はなく、為替影響により増収。黒字化計画に変更はなし。

＜施策進捗＞

- 低温・超低温プラグは、樹脂在庫繰りが安定した段階で、顧客でのフィールドテスト等の販売施策を再開する予定。本格的な販売は2027年度以降を想定。
- ショート化プラグへの切り替えは2Qで74%と順調に進捗しており、2026年度年間目標80%は達成する見込み。
- 米国樹脂生産については、現在実施している2回目の生産期間中に安定操業の確立を目指す。
- 2026年度に事業損益が黒字化しない場合には、抜本的な事業構造見直しを検討する。

KUREHA

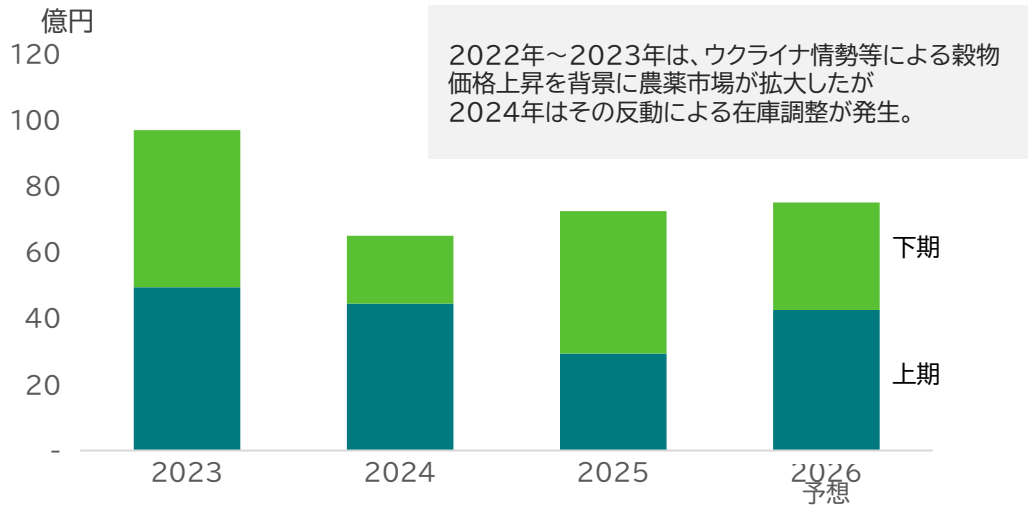
農薬事業

株式会社クレハ

＜市場概況＞

- 世界的な人口増加や新興国の経済成長に伴う食料需要の増加に加え、病害虫や雑草の薬剤耐性・抵抗性の発達などに伴い新規剤への期待は常に高い。天候不順等による一時的な変動はあるものの、グローバル農薬市場は中長期的な成長基調。
- 当社が展開する殺菌剤市場も同様に拡大傾向。あわせて、食の安全や環境配慮への意識の高まりから、高い安全性を備えた製品が常に求められている。
- 一方、安価なジェネリック品の参入が増加する中、コスト競争力強化とともに、商品ライフサイクルに合わせた柔軟な販売戦略が求められる。

＜農薬事業　既存品売上推移＞



＜損益の状況＞

前期同期(上期)比　前期(通期)比

- 上期は、メトコナゾールが上期偏重の出荷計画に伴う販売増、イプコナゾールの新規混合剤上市に伴う販売増により増収。
- 通期ではイプコナゾールの販売増および為替影響により、農薬事業トータルで増収の見込み。一方で、メトコナゾールは、ジェネリック品の影響を受け、販売数量が前年を下回る見込みであるが、対策として新規混合剤の投入を計画中。
- 研究開発費用の増加により、通期での減益を見込むが、新規農業用殺菌剤カルメコナゾールの本格上市に向けた先行投資を継続。

対前回(1Q時)予想比(通期)

- 研究開発費用の増加により、前回予想から下振れを見込む。

＜研究・開発＞

- 2030年代初頭の本格上市を目指す新規農業用殺菌剤カルメコナゾールは、世界各国での農薬登録申請に向けた準備が順調に進捗
- 「クレハ-産総研 アグリフロンティア連携研究ラボ」を設立。
  当社の農業関連技術と産総研の先進的な技術・知見を融合し、新たな農業資材の創出を推進。持続可能な農業の実現と安定した食料生産への貢献を目指す。

KUREHA

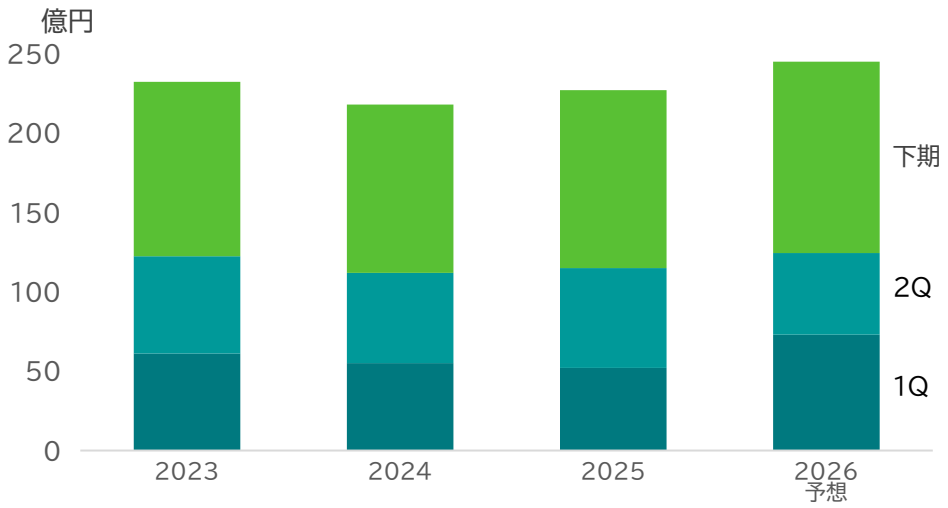
家庭用品事業

株式会社クレハ

＜ラップ市場概況＞

- 引き続き家庭用ラップの使用量は概ね横ばいで推移するものと予想する。
- 2026年度は中東情勢の影響による消費者の備蓄的購買により、1Qに需要が集中。6月以降は反動の局面に入り、市場が停滞したものの、9月以降徐々に回復している。上期トータルとしては、市場は前年並みの規模となった。

＜家庭用品事業　売上推移＞



＜損益の状況＞

前期同期(上期)比　前期(通期)比

- 中東情勢の影響による消費者の備蓄的購買により、1Qの売上が大幅に増加したが、2Qはその反動もあり、前年の売上を下回った。上期トータルでは、新CMや販売促進により、対前年売上を上回った。
- 通期においても、積極的な広告宣伝・販売促進により前年を上回る売上収益を目指すものの、販売促進費増や原燃料価格上昇から減益。

＜施策進捗＞

- ブランド力強化の一環として、CMコンセプトを一新、幅広いターゲット層に訴求できるTHE ALFEEをCMに起用。
- 「スパッと切れる」「ピタッと密着」「ピーンと丈夫」というNEWクレラップの3つの特長に加え、「日本初の家庭用ラップ」であることをCMソングで訴求。



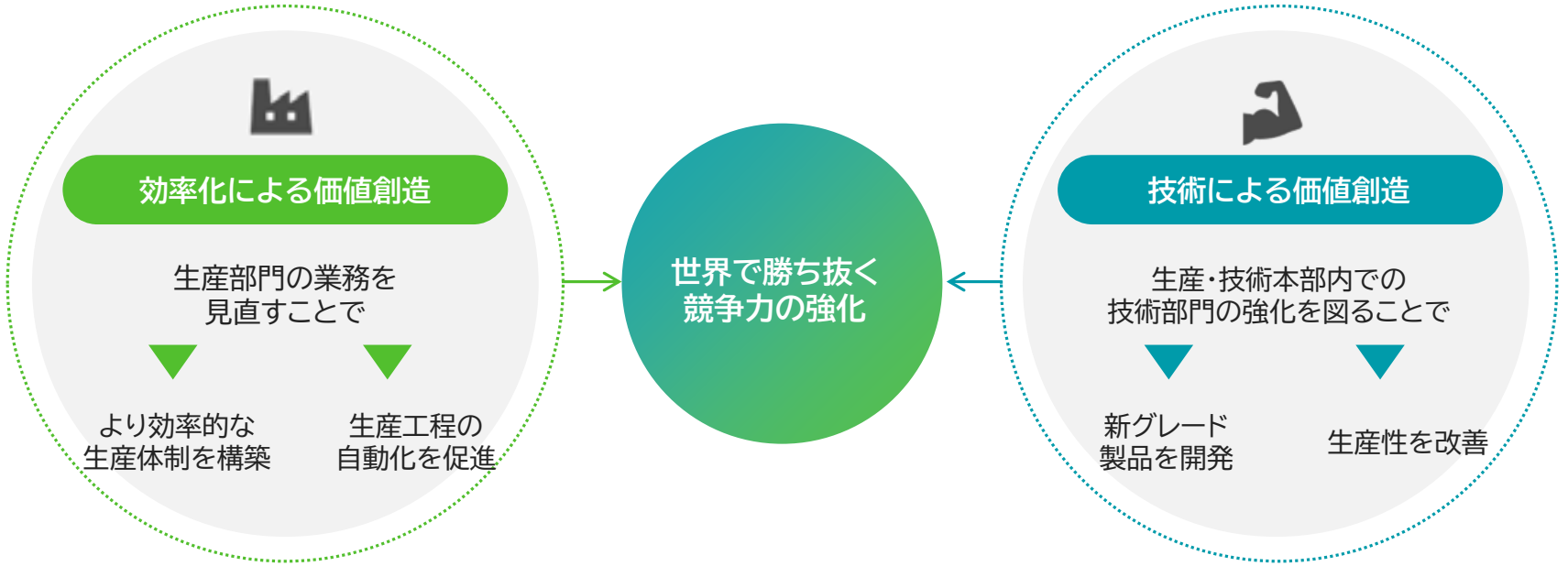
KUREHA

生産革新プロジェクト

株式会社クレハ

- 機能製品・樹脂製品事業では、業務の見直しによる効率化および自動化を推進、また、技術力を集約することで機能強化を図る。
- 製造部門の業務の効率化および技術力強化を通じて、価値創造を図り、これらの取り組みを循環させながら世界で勝ち抜く持続的な競争力の確立を目指す。
- 2028年度までに15億円規模の利益改善を計画。

生産革新プロジェクトでの取り組み



＜進捗状況＞

生産革新プロジェクトの横展開

- 本プロジェクトが2年目となるいわき事業所は2026年度より「本格実行フェーズ」へ移行。
- 2026年度より樹脂加工事業所においてもプロジェクトを始動。

効率化による価値創造

2028年度までの効率化目標に対して概ね計画通りに進捗。

- 製造部門での業務見直しによる効率化に着手。一環として、プラント保守業務の内製化により経費削減。
- 生成AI・情報利活用によるスマート工場構想の具体化を推進中。

技術による価値創造

- 既存製品の付加価値向上や廃棄物の削減、エネルギー原単位削減を推進中。

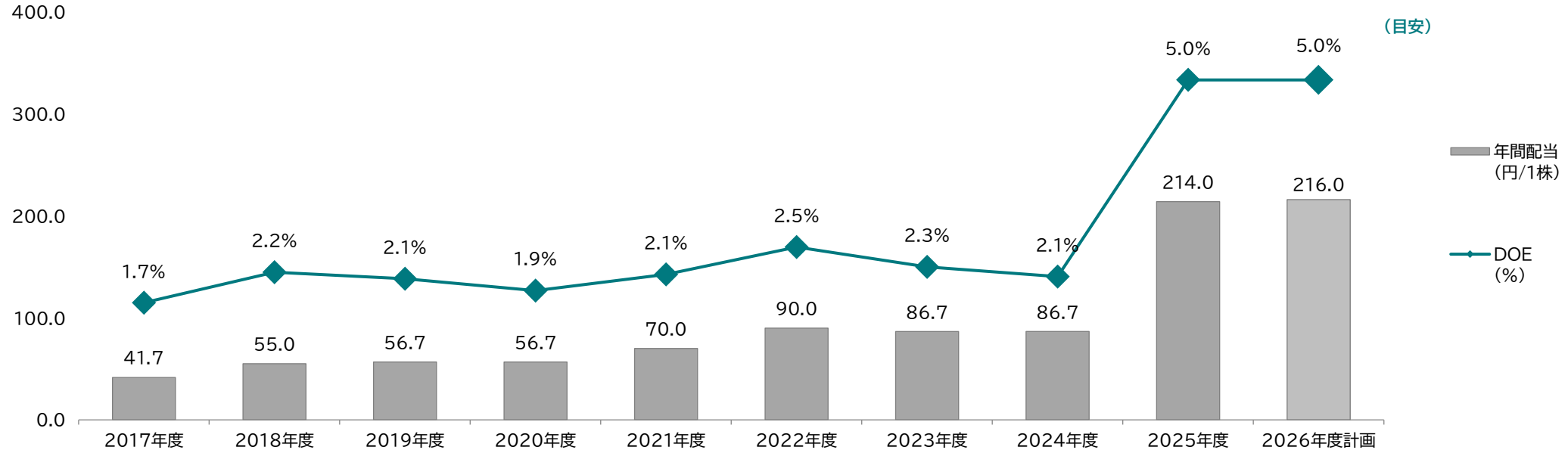
KUREHA

配当　2026年5月12日開示資料より再掲

株式会社クレハ

- 利益配分は、将来の事業展開に向けた積極投資に資する内部留保を充実させつつ、安定的な配当が基本方針。
- 2027年度以降もDOE5%を目安とした配当を計画。
- 想定以上の事業環境変化が生じた場合、もしくは想定以上の成長投資を実施した場合には、機動的にDOEの配当率を見直す。

＜1株あたり年間配当およびDOEの推移＞



2024年1月1日付で普通株式1株につき3株の割合で分割しています。すべて2024年1月の分割後に換算して表示しております。

KUREHA

Ⅲ. 資料

Ⅲ-(1) 2027年3月期 上期業績
Ⅲ-(2) 2027年3月期 通期業績予想
Ⅲ-(3) 主要指標

セグメント別連結業績

株式会社クレハ

機能製品セグメント

（単位：億円）

	2027年3月期 上期実績	2026年3月期 上期実績	増減 額	増減 率
PVDF	82	74	8	11%
PGA	61	43	18	41%
その他	79	81	-2	-2%
機能樹脂	**222**	198	24	12%
炭素製品	**46**	42	5	11%
その他	**75**	72	3	5%
売上収益	**343**	311	32	10%
コア営業利益	**46**	24	22	94%

＜機能製品 前年同期比　増収・増益＞

機能樹脂

引き続きPGAの販売が好調なことに加え、PVDFがEV用途および工業用途での販売増加により増収。
上期の樹脂生産数量増による原価改善等によりPGA利益が大幅に改善したほか、持分法利益を含むPPS損益の好転により増益。

炭素製品

高温炉用断熱材の売上が増加したことから、増収・増益。

化学製品セグメント

	2027年3月期 上期実績	2026年3月期 上期実績	増減 額	増減 率
農薬	42	29	13	45%
医薬品	16	12	4	30%
ライフサイエンス	**58**	42	17	40%
工業薬品	**53**	47	6	12%
その他	**50**	48	2	4%
売上収益	**161**	137	24	18%
コア営業利益	**4**	4	0	5%

＜化学製品 前年同期比　増収・利益前年同期並み＞

ライフサイエンス

農薬のメトコナゾールの上期偏重の出荷計画に伴う販売増、イプコナゾールの新規混合剤上市に伴う販売増により、ライフサイエンス領域は増収・増益。

工業薬品

有機薬品の売上が増加したものの、原材料価格の上昇により、増収・減益。

KUREHA

コア営業利益：営業利益から非経常的な要因により発生した損益（非経常項目）を除いて算出

セグメント別連結業績

株式会社クレハ

（単位：億円）

樹脂製品セグメント

	2027年3月期 上期実績	2026年3月期 上期実績	増減 額	増減 率
家庭用品	124	115	9	8%
釣糸	28	28	1	3%
業務用包材	21	19	1	8%
その他	23	21	2	8%
売上収益	**196**	182	13	7%
コア営業利益	**38**	36	3	7%

＜樹脂製品 前年同期比　増収・利益前年同期並み＞

家庭用品・釣糸

家庭用ラップ「NEWクレラップ」の売上収益は増加したものの、
原材料価格の上昇等により、増収・利益前年同期並み。

＜建設関連 前年同期比　増収・減益＞

売上収益は増加したものの、売上構成の変化により、増収・減益。

建設関連セグメント

	2027年3月期 上期実績	2026年3月期 上期実績	増減 額	増減 率
売上収益	**80**	59	21	35%
コア営業利益	**3**	4	-1	-27%

その他関連セグメント

	2027年3月期 上期実績	2026年3月期 上期実績	増減 額	増減 率
環境事業	61	54	7	13%
運送事業	7	7	-0	-2%
病院事業	22	22	-0	-1%
その他	1	2	-0	-16%
売上収益	**91**	84	6	8%
コア営業利益	**14**	10	4	46%

KUREHA

コア営業利益：営業利益から非経常的な要因により発生した損益（非経常項目）を除いて算出

財政状態計算書

株式会社クレハ

資産

	2026年9月末	2026年3月末	増減
現金・現金同等物	**279**	297	-18
営業・その他債権	**301**	326	-25
棚卸資産	**422**	434	-12
その他流動資産	**132**	52	80
流動資産 計	1,134	1,109	25
有形固定資産	**1,465**	1,471	-7
無形固定資産	**45**	49	-3
投資等	**767**	756	11
非流動資産 計	2,277	2,276	1
資産　合計	3,411	3,384	26

負債及び資本　（単位：億円）

	2026年9月末	2026年3月末	増減	
営業・その他債務	**193**	210	-17	
有利子負債	**1,232**	1,242	-10	
引当金	**78**	79	-1	
その他負債	**177**	181	-4	
負債 計	1,680	1,713	-33	
資本金	**182**	182	-	
資本剰余金	**147**	147	-	※1
自己株式	**-64**	-373	309	※2
利益剰余金	**1,211**	1,454	-243	※3
その他の資本	**236**	243	-7	
非支配株主持分	**20**	19	1	
資本 計	1,731	1,672	59	
負債・資本　合計	3,411	3,384	26	

※1 … 自己株式消却△309、利益剰余金から振替+309 他
※2 … 自己株式消却+309 他
※3 … 資本剰余金へ振替△309、当期利益+76、配当△40 他

KUREHA

キャッシュフロー実績

株式会社クレハ

（単位:億円）

	2027年3月期上期	2026年3月期上期	増減
税引前中間利益	106	85	21
減価償却費および償却費	58	61	△ 4
その他	△ 69	△ 13	△ 56
営業キャッシュフロー	94	133	△ 39
投資キャッシュフロー	△ 58	△ 50	△ 8
フリーキャッシュフロー	36	83	△ 47
財務キャッシュフロー	△ 54	△ 47	△ 7
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	1	△ 1
現金及び現金同等物の増減額	△ 18	37	△ 55
現金及び現金同等物の期首残高	297	215	82
現金及び現金同等物の期末残高	279	252	27

主な増減要因

営業CF　△39億円

税引前中間利益	+21
持分法利益	△10
運転資本	△20

投資CF　△8億円

固定資産等売却	△7

財務CF　△7億円

短期借入金及びCP	△370
自己株式取得	391

KUREHA

Ⅲ. 資料

Ⅲ-(1) 2027年3月期　上期業績
Ⅲ-(2) 2027年3月期 通期業績予想
Ⅲ-(3) 主要指標

2027年3月期 業績予想　概要

株式会社クレハ

売上収益・コア営業利益　　（単位：億円）

	2027/3 予想			2026/3 実績		
	上期実績	下期予想	通期	上期	下期	通期
売上収益	**871**	**889**	**1,760**	**774**	**843**	**1,617**
機能製品	343	317	660	311	302	613
化学製品	161	154	315	137	158	295
樹脂製品	196	209	405	182	185	367
建設関連	80	115	195	59	101	160
その他関連	91	94	185	84	97	182
コア営業利益	**108**	**52**	**160**	**76**	**69**	**145**
機能製品	46	7	53	24	-2	21
化学製品	4	2	6	4	10	14
樹脂製品	38	25	63	36	34	69
建設関連	3	5	8	4	11	15
その他関連	14	12	26	10	16	26
全社調整	3	1	4	-1	1	-1

KUREHA

コア営業利益：営業利益から非経常的な要因により発生した損益（非経常項目）を除いて算出

セグメント別連結業績予想

株式会社クレハ

（単位：億円）

機能製品セグメント

	2027年3月期 今回予想	2026年3月期 実績	増減 額	増減 率
PVDF	140	149	-9	-6%
PGA	120	98	22	23%
その他	175	149	26	18%
機能樹脂	**435**	396	39	10%
炭素製品	**85**	79	6	8%
その他	**140**	138	2	1%
売上収益	**660**	613	47	8%
コア営業利益	**53**	21	32	148%

＜機能製品　前期比　増収・増益＞

機能樹脂

PGA・PPSを中心に増収。
PVDFがいわき事業所の能力増強の一部設備の償却の開始、前年度にあった在庫評価の戻し益がなくなることなどにより減益となるが、PPSが自動車用途に加え、AIサーバー向け光コネクタ部品用途が好調なことにより売上および利益増加、および持分法利益を含む損益改善による増益、PGAの黒字化により、増益。

化学製品セグメント

	2027年3月期 今回予想	2026年3月期 実績	増減 額	増減 率
農薬	75	72	3	4%
医薬品	30	33	-3	-9%
ライフサイエンス	**105**	105	-0	-0%
工業薬品	**110**	92	18	19%
その他	**100**	97	3	3%
売上収益	**315**	295	20	7%
コア営業利益	**6**	14	-8	-56%

＜化学製品　前期比　増収・減益＞

農薬

増収となるも、研究開発費の増加により減益。

工業薬品

原燃料価格上昇分の価格転嫁を実施し、増収。

KUREHA

コア営業利益：営業利益から非経常的な要因により発生した損益（非経常項目）を除いて算出

セグメント別連結業績予想

株式会社クレハ

（単位：億円）

樹脂製品セグメント

	2027年3月期 今回予想	2026年3月期 実績	増減 額	増減 率
家庭用品	245	227	18	8%
釣糸	65	58	7	11%
業務用包材	50	39	11	27%
その他	45	43	2	6%
売上収益	**405**	367	38	10%
コア営業利益	**63**	69	-6	-9%

＜樹脂製品　前期比　増収・減益＞

家庭用品・釣糸

家庭用ラップ「NEWクレラップ」および釣糸「シーガー」の販売は増加するも、販売促進費の増加と原燃料価格の上昇から、増収・減益。

＜建設関連 前期比　増収・減益＞

売上収益は増加したものの、売上構成の変化により、増収・減益。

建設関連セグメント

	2027年3月期 今回予想	2026年3月期 実績	増減 額	増減 率
売上収益	**195**	160	35	22%
コア営業利益	**8**	15	-7	-48%

その他関連セグメント

	2027年3月期 今回予想	2026年3月期 実績	増減 額	増減 率
環境事業	125	120	5	4%
運送事業	10	15	-5	-33%
病院事業	45	43	2	4%
その他	5	4	1	30%
売上収益	**185**	182	3	2%
コア営業利益	**26**	26	0	0%

KUREHA

コア営業利益：営業利益から非経常的な要因により発生した損益（非経常項目）を除いて算出

キャッシュフロー予想

株式会社クレハ

（単位:億円）

	2027年3月期 予想	2026年3月期 実績	増減
税引前当期利益	130	△183	313
減価償却費および償却費	120	123	△4
減損損失		365	△365
その他	△103	△25	△78
営業キャッシュフロー	**146**	**280**	**△134**
投資キャッシュフロー	**△54**	**△137**	**83**
フリーキャッシュフロー	**92**	**143**	**△51**
財務キャッシュフロー	**△102**	**△80**	**△22**
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響		19	△19
現金及び現金同等物の増減額	△9	82	△91
現金及び現金同等物の期首残高	297	215	82
現金及び現金同等物の期末残高	288	297	△9

※　運転資本増減　△120億円

2027年3月期予想
- 売上債権の増加　△40億円
- 棚卸資産の増加　△20億円

2026年3月期実績
- 棚卸資産の減少　+42億円

主な増減要因

営業CF　△134億円
- 税引前利益　+313
- 減損損失　△365
- 運転資本増減　△120

投資CF　+83億円

財務CF　△22億円
- 自己株式取得　+391
- 有利子負債増減　△410

KUREHA

Ⅲ. 資料

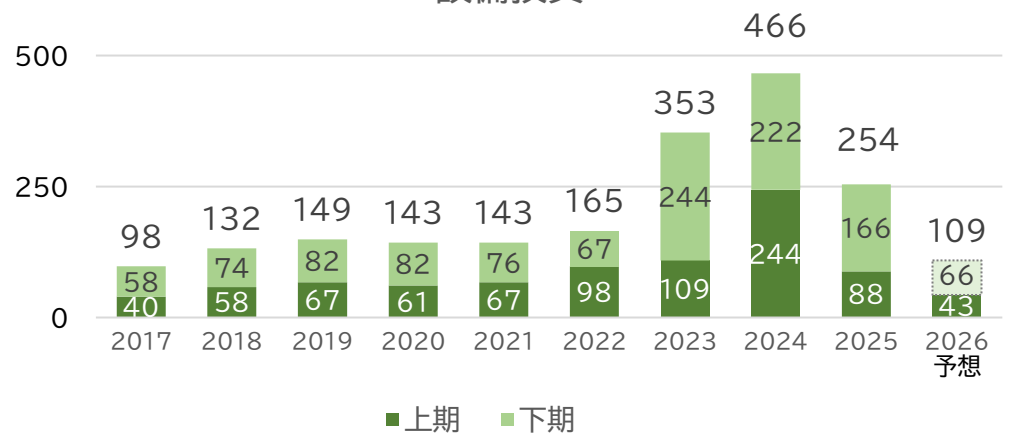
Ⅲ-(1) 2027年3月期 上期業績
Ⅲ-(2) 2027年3月期 通期業績予想
Ⅲ-(3) 主要指標

主要指標(1)

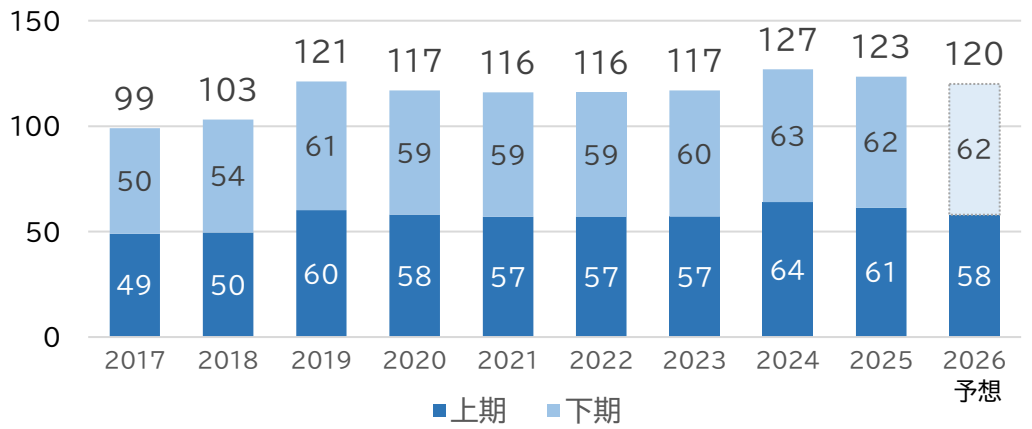
株式会社クレハ

（単位：億円）

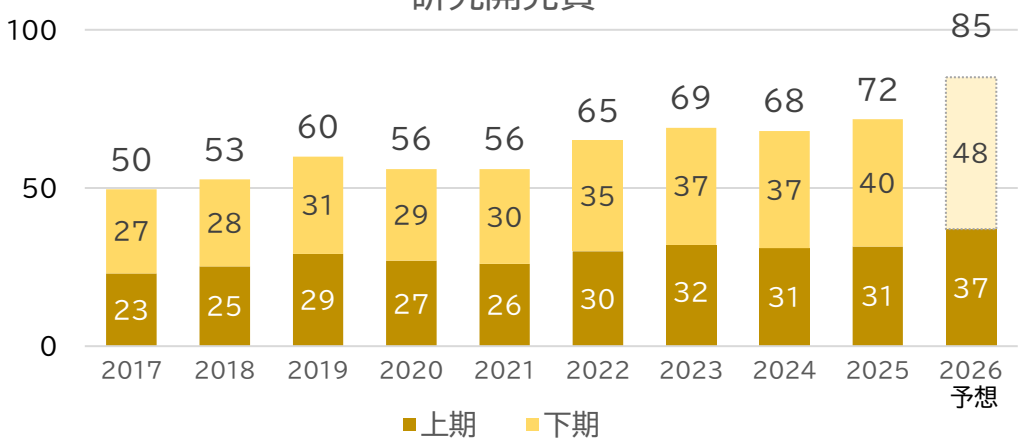
設備投資



減価償却費



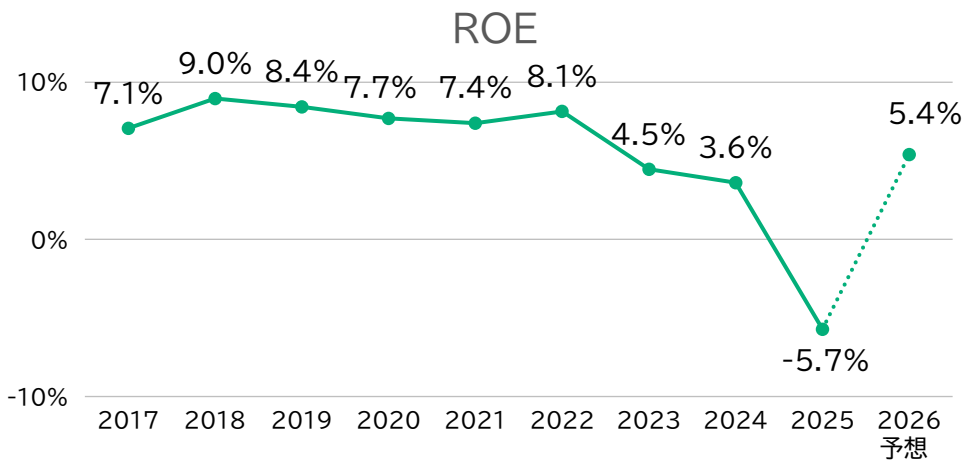
研究開発費

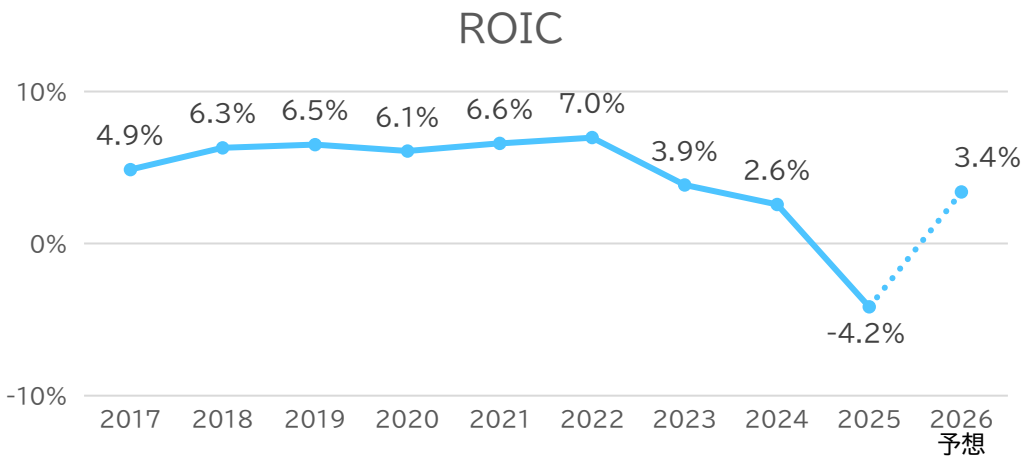


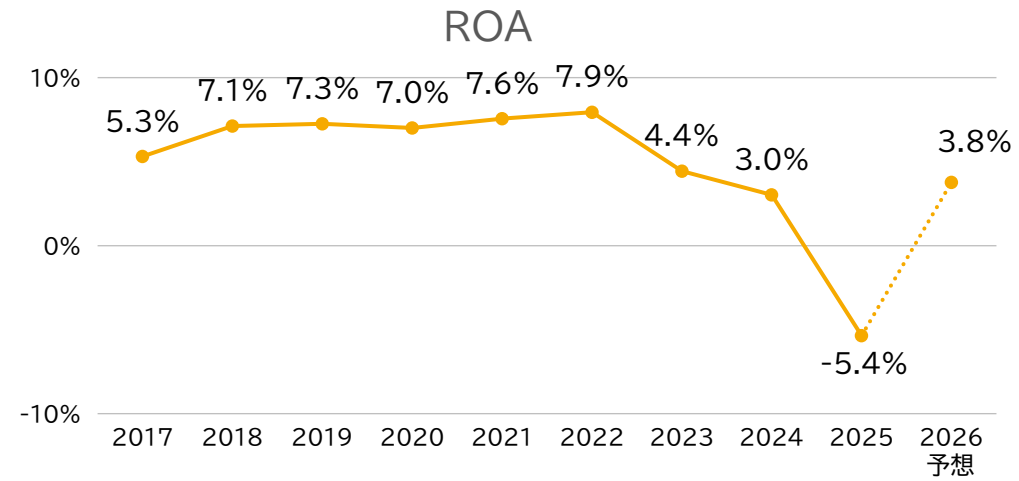
KUREHA

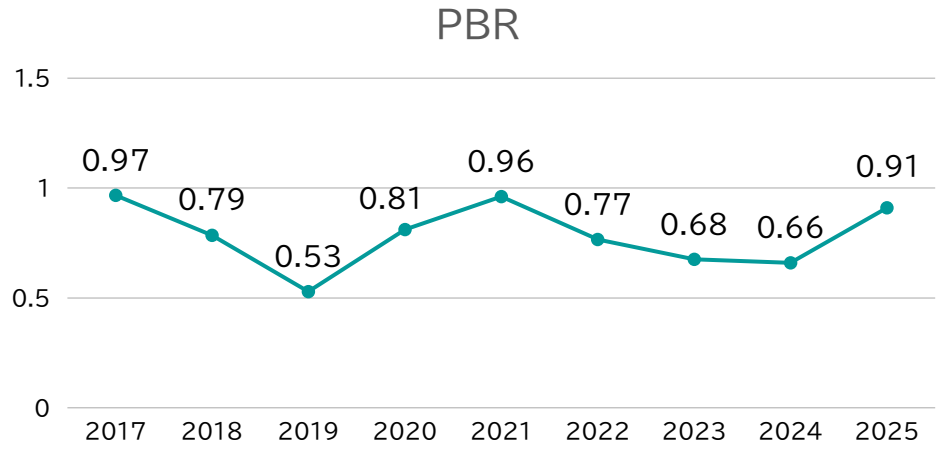
主要指標(2)

株式会社クレハ







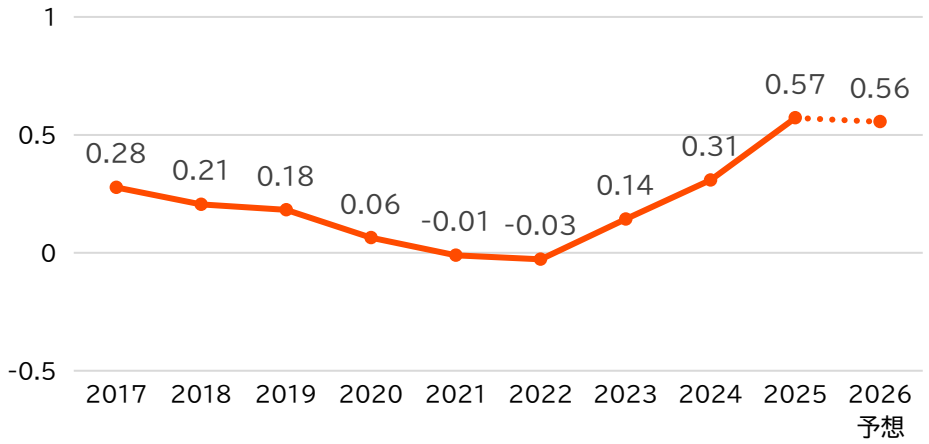


KUREHA

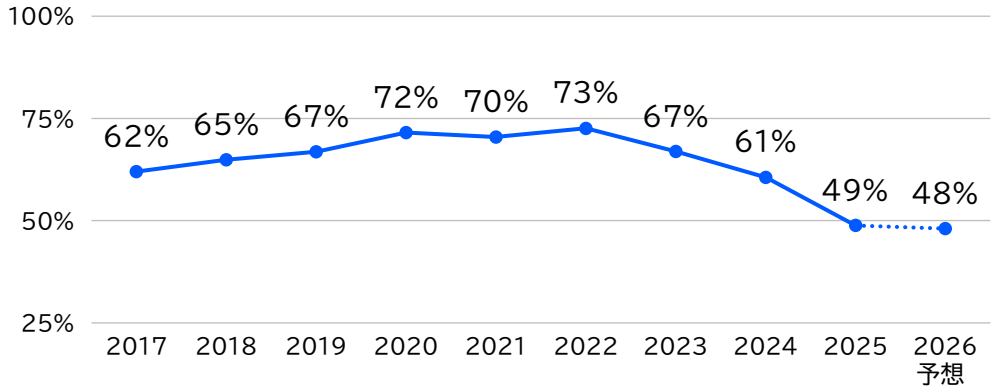
主要指標(3)

株式会社クレハ

ネットDEレシオ

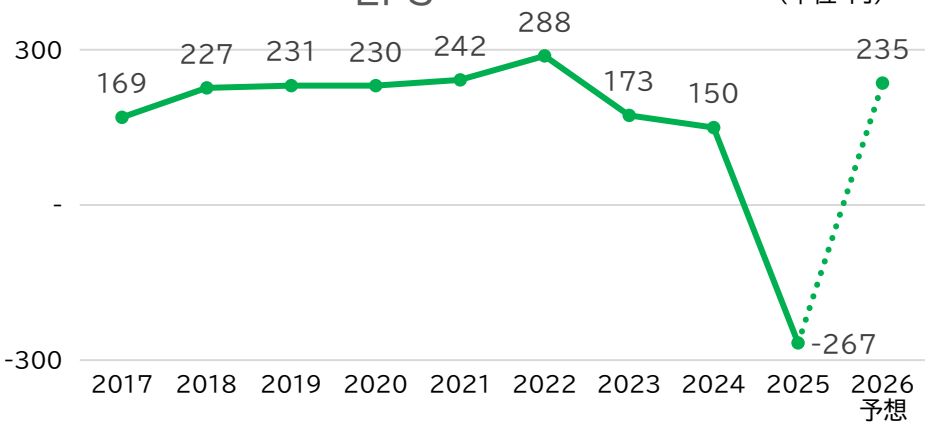


自己資本比率



EPS

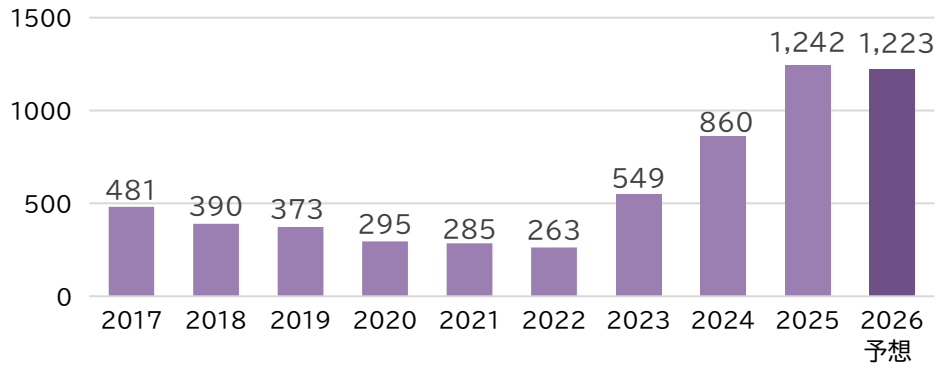
(単位:円)



2022年度以前も2024年1月1日付で実施した株式分割(3分割)後の数値で表示。

有利子負債

(単位:億円)



KUREHA

本資料はあくまで当社をより深くご理解いただくための資料であって、本資料による投資等何らかの行動を勧誘するものではありません。

本資料は、現時点で入手可能な情報に基づいて当社の判断により作成されておりますが、実際の業績が様々な要因により計画とは異なる結果となり得ることをご承知おきください。

本資料のご利用に関しましては、ご自身の判断と責任にてお願いいたします。